

# 令和7年度取組状況

ものづくり工学科

医療福祉工学コース

(職)准教授(氏名)古屋 友和

取組状況	
教育	<p><b>1. 4年 人間工学実験実習に製品評価実験を導入</b> ・より実践的な力を身に着けるため、様々なポインティングデバイスの評価にあたり、フィッツの法則を用いた実験を導入にした。また、次年度に向けて感覚特性を計測する実験も検討した。</p> <p><b>2. 5年 福祉機器設計Ⅱに低忠度プロトタイプングを導入</b> ・設計検討中に人間工学要件や機能を確認するため、紙や発砲スチロール等を用いたプロトタイプングを導入した。アンケートにより、プロトタイプングが設計検討において有効であることが確認できた。</p> <p><b>3. 1年生 アントレプレナーシップ教育の導入</b> 教務室と連携し、1年生向けのアントレプレナーシップを導入した。導入による効果を紀要にまとめた。</p>
研究	<p><b>1. 国際会議論文(査読有)</b> [1] Ookawara,H., <b>Furuva,T.</b> (2025) Vibration Device for Electric Wheelchairs Providing Tactile Feedback on the Type and Direction of Nearby Objects, <i>2025 IEEE World Haptics Conference</i>, pp.822-823 <b>[責任著者]</b> [2] Arai,K. <b>Furuva,T.</b>, Sakazaki,J., Hiyoshi,N., Hirotsuki,S., Higuchi,T. (2025) Exploring Control of Speed Perception in Driving Simulator by Vection using Tactile Stimulation, <i>2025 IEEE International Conference on Consumer Electronics-Asia</i>,pp.373-376 <b>[責任著者]</b></p> <p><b>2. 紀要</b> [1] 田村恵万, <b>古屋友和</b>, 杉本聖一, 東京都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパスにおけるアントレプレナーシップ教育の取組と効果, 東京都立産業技術高等専門学校紀要。</p> <p><b>3. 国内学会等発表</b> [1] 大河原温人, <b>古屋友和</b>, “電動車いす運転時における振動触覚刺激の変化による周辺物体の識別の基礎的検討”, ヒューマンインタフェースシンポジウム2025論文集, pp.614-617, 2025年9月 <b>[責任著者]</b> [2] 大河原温人, “電動車いす利用者に向けた振動触覚刺激を用いた周辺物体の情報伝達方法の提案”, 自動車技術会 秋季大会 学生ポスター発表, 2025年10月 <b>[研究責任者]</b> [3] 新井慶, “触覚刺激を用いた自己運動感覚による自動車運転時の速度感の制御の検討と適用方法の提案”, 自動車技術会 秋季大会 学生ポスター発表, 2025年10月 <b>[研究責任者]</b> [4] 今橋由希, <b>古屋友和</b>, 菊地謙, 樋口貴広 “ベイズ最適化による少数試行での衝突回避行動実験方法の検討”, 日本人間工学会関東支部 第31回卒業研究発表会予稿集, pp.130-131, 2025年12月 <b>[責任著者]</b> [5] <b>古屋友和</b>, “自動車乗車時における視線行動と全身動作の関係” 産業技術総合研究所 第5回 デジタルヒューマン技術協議会, 2026年2月 <b>[研究責任者]</b></p> <p><b>4. 外部資金獲得</b> [1] 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C), 研究代表者, R5~7年度実施</p> <p><b>5. その他</b> [1] ラフバラー大学 デザイン&amp;クリエイティブアーツ学部 客員研究員 2025年5月~8月</p>
社会貢献	<p><b>1. 学会活動</b> [1] 日本人間工学会、ヒューマンインタフェース学会、自動車技術会、日本交通科学学会、IEEE 会員 [2] 日本人間工学会 代議員・関東支部 会計・関東支部大会 実行委員</p> <p><b>2. その他</b> [1] 玉川大学 工学部 非常勤講師 [2] 科学技術振興機構 外部専門家 [3] 出前授業 “人が使いやすい製品とは? ~人間工学のお話~” 2025年7月</p>